



寺地美奈子 Minako TERACHI

助教 Assistant Professor

博士(文学) Ph.D.

Keywords: 映像メディア、メディア・インフラストラクチャー、無線、メディア文化

Contact: minakota@slis.tsukuba.ac.jp



筑波大学
University of Tsukuba

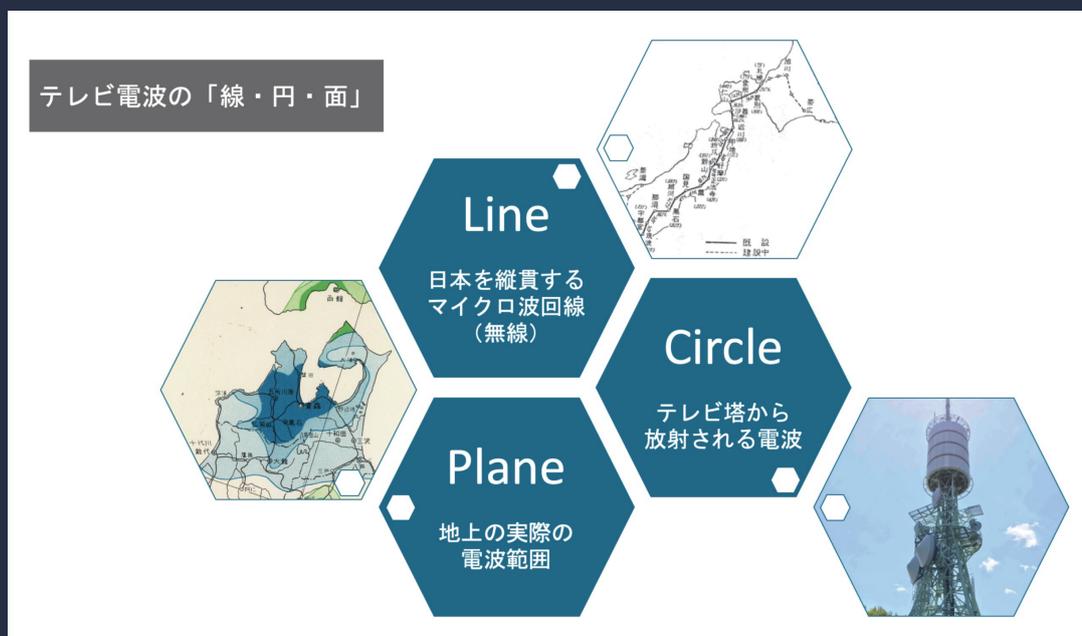
Graduate
School of
Library,
Information and
Media Studies

研究概要

20世紀は「映像の世紀」と呼ばれたように、映像メディアが急速に発達した時代でした。最も影響力を持った映像メディアはテレビでしょう。私はこれまで、テレビが真新しい映像メディアとして登場した1950年代における地方のテレビ受容の様相について、青森県を事例に研究を進めてきました。テレビがまだ現在の文化形式を獲得していなかった頃の地方では、地域の文化的背景からテレビを多様に受容する姿が見られました。

21世紀に入り、現在も「映像の世紀」は続いているように見受けられます。SNSや動画配信サービスなどによって、映像を受容することがより身近な時代となりました。今後の研究としては、これからのメディアや情報獲得のあり方を探求するため、スマートフォンやタブレット、パソコンなど現代の映像メディア媒体全般を研究の対象とします。映像コンテンツ、視聴を支える技術、メディアの在り方を規定する法制度など、多角的な視点からメディアと人々の関係を検討していきます。

www.slis.tsukuba.ac.jp



論文

- 1) 太田美奈子. 「線」と「円」のテレビ史：青森県を事例としたテレビ電波の考古学. 技術と文化のメディア論, 165-182, 2021.11
- 2) 太田美奈子. 無線/有線からみる地方のテレビ受容：青森県三戸郡田子町の事例から. ソシオログス, (45), 1-20, 2021.11
- 3) 太田美奈子. 気象情報にみる秩序のローカリティ：青森県内テレビ局「市町村別の明日の天気予報」を事例に. 人文科学研究, 148, 79-102, 2021.3
- 4) 太田美奈子. 放送の地域主権：民放草創期, 「ラジオ青森」の事例から. 表象・メディア研究, (9), 35-55, 2019.3
- 5) 太田美奈子. 青森県下北部佐井村における初期テレビ受容. マス・コミュニケーション研究, (92), 165-182, 2018.1

社会貢献活動

日本メディア学会(旧日本マス・コミュニケーション学会)にて、2019年10月から2021年7月まで次世代委員会の委員を務め、若手世代の学会参加を促す企画に携わった。2021年8月からは同学会の放送研究部会の部会幹事を務め、大会や研究会の企画運営を行っている。また、フィールドである青森県の人々に研究成果を還元する機会として、市民団体「青森まちかど歴史の庵『奏海』の会」主催の講座を2018年と2019年に担当し、青森県におけるメディアの歴史を講じた。

メッセージ

「メディア」という響きに「何か楽しそう!」と感じるなら、その気持ちを大切にしてほしいと思います。スマートフォンやタブレット、パソコンなどのメディア媒体を介したコミュニケーションが拡大の一途を辿っている理由のひとつに、メディア経験が結局楽しいものであるということが挙げられるのではないのでしょうか。自明のように思えるメディアと人々との関係を多角的に検討し直す作業によって、メディア・コミュニケーションの豊かな未来を考えていきましょう。